

長岡中央総合病院 倫理委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	4型胃癌に対する術前化学療法
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2000年から2022年までの当科で胃切除を行った4型胃癌199例のうち、穿孔例、残胃癌、81歳以上、腹膜以外の遠隔転移、長径10cm未満の病変などを除く、128例。
③概要	4型胃癌（いわゆるスキルス胃癌）は腹膜転移を来しやすく、その予後は不良である。周術期の化学療法が重要であると考えられ、治療開発が行われている。当院では、積極的に術前化学療法を行ってきた。その治療成績を検討した。全症例の5年全生存率は27.9%、生存中央値は933日であった。癌遺残のない手術は64例で行われ、5年生存47.1%であった。組織学的な癌遺残があった症例は35例で5年生存8.7%、肉眼的な癌遺残があった症例は29例で5年生存9.5%であった。術前化学療法群の5年生存率は30.4%、手術先行群は5年生存率27.8%で生存率に有意差はなかった。化学療法レジメン別では3剤併用のDCS療法がよい傾向があった。
④申請番号	（倫理委員会申請時の受付番号。未採番の場合は空欄。）
⑤研究の目的・意義	4型胃癌の治療成績を調査し、術前化学療法の意義を検討する。
⑥研究期間	2024年3月1日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	後方視的なカルテ調査を用いた観察研究（個人情報その他施設への情報提供なし）
⑧利用または提供する情報の項目	臨床（血液・画像）病理学的検査、治療内容（化学療法・手術内容、予後（生存・再発形式）
⑨利用の範囲	第96回日本胃癌学会で発表予定
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	河内保之 外科医局
⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	医療支援課 0258-35-3700（代表）

※使用する際は、これを含む下の文章を全て削除してください。